



ぶらぶら文庫
creative

story 玉城琴也
illustration 珈琲貴族

それでも 水着は 脱がさない!

Soredemo
Mizugi
Ha
Nugasanai!

「ふうん？ でも、ここ、昨日よりすっごくぬるになつてるよ？」

「そ、それは、康祐くんのに慣れてきたからで……別に見られてるからじや……！」

「そうなんだ？」

「そ、そ……だよ……ッ！ ん、あ、ん……あああ……や、やん……ッ！」

「まどかちゃんの口から発せられる吐息に、明らかに昨日はなかつた喘ぎが混じつている。

俺のに慣れたってだけじゃない。

間違いない、まどかちゃんは野外プレイで、明らかに感度が増している。

昨晩の初体験における弊害といえるかもしれない。

初体験なのに、昨晩は陽子さんの視線を感じていたから——まどかちゃんはちょっととした露出癖に目覚めてしまった。

それをいつたら、俺も初体験が水着をつけた彼女だったから、水着姿に異常な興奮を覚えるようになつたのかもしれない。

俺はひたすら腰を揺らし、ぱちやばちゃんと水を跳ねさせた。

「どう？ まどかちゃん、少しほは氣持ちよくなつてきた？」

「あ、あん！ はあ、あ、あ、あ、き、きもち、い……あ……！」

まどかちゃんの口から、ぽろっと言葉が漏れた。

「そつか、二回目でもう気持ちはよくなつてきたんだね？」

「あ、ん……ち、違うの……今は、その違くて……あの……はうう……！」

「まどかちゃんが感じてくれた方が、俺も嬉しいんだけどな。遠慮なく、俺も気持ちよくなれるし」

まどかちゃんが快感を覚えてきたつていうなら、遠慮なしだ。

円を描くように腰をくねらし、まどかちゃんの気持ちいい部分を探る。

「んふあ、ああ、あ、ああ！ や、こ、康祐、くうん……おちんちん、ぐりぐり、しちやんふあ、あ、や、ら、らめえ……つ！」

「どの辺が気持ちいい？」

「んあ、や、わ、わかなあい……！ ぐりぐりされるの、みんな気持ちよくて、どこかなんてわかんないよお……！」

まどかちゃんの膣内を広げるよう、俺は腰をくねらし続ける。ペニスがねじれ、亀頭が擦れて、これでも十分に気持ちがいい。

「んうううううッ！」

そんな俺の亀頭がまどかちゃんのイイ部分を捉えたらしく、彼女の体がビクンと跳ねた。

「ここ？ 気持ちよかつたのは、ここかな？」

まどかちゃんの内側から、お腹の方をえぐるように。

角度をつけて、亀頭を壁に擦り付けるようにしながら、俺はピストン運動を再開する。

「あ、やあ！ んあ、あ！ あああ！ そこのつ、そこおつ！ 勝手にびくびくして、ぞくぞくしちゃうようツ！」

抜き差しする度に、俺のペニスをもつちりと包み込んでくるまどかちゃんの膣内は、陽子さんともまた違つて極上だ。

至高と究極、どっちが上？ みたいな、決めるのがバカバカしくなるような心地よさ。

どっちだって気持ちいい。どっちだって最高だ。

「あん、その動き方、ずこくエッチだよお……！」 康祐くん、すぐ上手になつてるよお……！」

それはまあ……陽子さんのレクチャーのおかげというべきなんだろうなあ。

「た、多分、慣れてきたんだよ……まどかちゃんだつて、慣れてきたでしょ？」

「う、うん……そう、だねつ、私も、おちんちん、平気に、なつてきたし……んんッ！」

激しく腰を動かす度、水が跳ねる。鼻や口に入り、呼吸が止められる。

「わっふ……まどかちゃん、水、大丈夫……？」

快樂に溺れるのはいいが、水に溺れては仕方がない。

「ん、うんッ！ だ、大丈夫う……康祐くんのおかげで、水、怖くなくなつてきたかも……でも……私のこと、離しちゃ、嫌だよ……？」

ギュッと強く抱きしめてきたまどかちゃんの体を、俺も強く抱きしめ返す。

いじらしい彼女に応えなきやいけない。

「まどかっ、まどかあ、好きっ、好きだ、愛してるッ！」

突き入れる度、口からは自然と愛の言葉が漏れてしまつた。

「はう、はあっ、康祐くん、私も、好き、好きだよお……大好き、大好きっ……愛して
るよお……！」

俺が突き入れる度、まどかもまたリズミカルに愛の言葉を囁き返してくる。

愛を言葉にしたら、その効果は絶大だ。

射精欲が唐突に股間にこみ上げてくる。

「あ、ああん！ 康祐くうん、私、私、ヘン、ヘンになつちやう、こんな、こんなところで、
とんじやうよおっ！」

それは、まどかもまた同じらしく、一突きごとにビクビクと体を震わせる。

密着した性器から、全身から、その律動は伝わつてくる。

いつまでも繋がつていたかつたけど、お互い、どうやらもう先は長くないらしい。

「はっ、はあ、ま、まどか、それはイクつていうんだよ」

「イク、イク？ イ、イクの？ 私、イッちやうの？ プールでエッチして、人に見られてるかも知れないのに、初めてイッちやうのッ？」

「ああ、イクんだ、俺も、もうイキそうだ……ッ！」

トドメとばかりに、俺は腰の動きを水の中でできる限界まで高める。

さして広くないプールの水は激しく波立ち、飛び散つた飛沫が俺たちの顔に降りかかる。「出して、康祐くん、そのまま、私の中に、全部、全部うつ！」 中出し……！」

陽子さんの時にはためらつたけど。

「ああ、全部、中に出す、中に出すからなッ！ うぐ、まどかッ！」

一切の遠慮なく。

俺は強く抱きしめたまどかの中へと、熱くたぎった精を解き放ち、水の中で俺は果てた。

「んあ、あ、おちんちん、びゅくびゅくしててるッ、んあ、あつ！ ふあ、イクッ、イクッ
イクッ！ んあ、あ、ああああああああああああああああああああ！」

直後、あられもない絶頂の喘ぎが、まどかのかわいい口から吐き出された。

「はあ、はあっ……！」

「あ、ああ……おなかの中で、出てる……康祐くんの熱いの、びゅくびゅくしてるう……

子宮にまで、入つてきてるよお……ッ！」

俺に抱きかかえられたまま、まどかちゃんはのけぞり、熱い絶頂の吐息を吐き散らした。

「あふ、はふう……イクのって……セックスって、こんな気持ちいいんだ……こんな覚

えちゃつたら……私、おかしくなっちゃいそうだよお……」

初めての絶頂を迎えたまどかの目は虚ろで、俺の方を見ているのに、どこか別の場所を

見ているみたいで。

「まどか……？」

思わず不安になつて、声をかけてしまつた。

「あは……まどかって、呼んでくれた……♪」



「え……？　あ、いつの間に……？」

「まどか、と、敬称の『ちやん』を外して呼ぶことに抵抗を覚えなくなっていた。

「ん……そのままがいいな……愛してるよ……康祐くん……♪」

「愛してる、まどか」

しばらくの間、俺たちは繋がつたまま。水の中ですつと愛を囁きあつていた。

——後日、俺たちの汗やその他様々な体液が注ぎ込まれたこのプールは水が抜かれ、大清掃されたのだが、まあ、それは余談ということで。

また、その後、部屋に戻った俺たちは。

「ね、康祐くん、コツを忘れない内に、もう一回……しよ？」

今度はプールから、ベッドへと場所を変えて、俺たちはもう一度、いや、二度……。三度……だつたかな？

兎にも角にも、精力と体力が尽きかけるまで、互いを求め合つた。

まあ、互いしか目に入つてなかつた俺たちはすっかり忘れていたんだが。

* * *

「あーーーんもう！　ふたりともこのホテル、あたしの部屋に音が筒抜けっていうの、忘れてんじゃないのーーーッ！　いつまで盛つてんのよおおおおつ！」

「さつきプールでもしてたし、康祐くんつてば、今日一日で何回出すつもり？」　康祐くんとの一回はそりや格別だつたけど、こんな声、聞かされたら、思い出して疼いちやうじやない……もうツ！」

「こりや、あたしも混ぜてもらつて、三人でするつきやないわねつ！」

横の部屋の、溢るるピンク色の欲望に気づくことなどなかつたわけだ。

ぶちばら文庫 Creative
それでも水着は脱がさない!

2011年 8月30日 初版第1刷 発行

■著 者 玉城琴也
■イラスト 珈琲貴族

発行人：久保田裕
発行元：株式会社パラダイム
〒166-0011
東京都杉並区梅里2-40-19
ワールドビル202
TEL 03-5306-6921

印 刷 所：中央精版印刷株式会社

本書の内容を無断で複製・複写・放送・データ配信などをしては、
かたくお断りいたします。

落丁・乱丁はお取り替えいたします。

定価はカバーに表示しております。

©KOTOYA TAMAKI ©COFFEEKIZOKU

Printed in Japan 2011

PP023



ツインクルマニア☆

イラスト 牧だいきち
玉城琴也

お妹ハ
兄ちゃん
かんは
限定！

好評発売中

普段から生意気な袖葉と、おっとり系で兄思いな百合菜。対照的な双子を妹に持つ雄一は、脱ぎたてパンツを握りしめた瞬間に袖葉に見られ、弱みを握られてしまった。調子に乗った袖葉に足コキでいたがられ、そのまま奴隸扱いへと直線かと思ったが、百合菜の助けで、思わぬことに気づかされる。双子姉妹は互いの心も伝わるらしく、ふたりともが雄一のことを大好きで…。

ぶちばら文庫13
玉城琴也 著
牧だいきち 画
定価 670円(税込)

好評発売中



paradigm ぶちばら文庫は ライター&イラストレーターを募集中です!

「ぶちばら文庫」シリーズを盛り上げる、新たな作家を募集いたします。「ぶちばら文庫」は、ゲームノベライズだけでなく、オリジナル創作による美少女小説も刊行予定です。応募規定は、それぞれ以下のようになります。皆様のご応募をお待ちしております！

1. 募集内容

「ぶちばら文庫」シリーズでは、美少女ゲームやライトノベルを好む読者層へ向けた作品作りを目指しています。ご応募いただく場合も、ヒロインの個性や魅力が伝わるようなもの、シチュエーションへのこだわりが感じられるものなど、はっきりしたテーマのある作品をお願いいたします。題材はとくに限定していません。発表済か、未発表作品かも問いません。

2. 送付方法

小説の場合は、テキストデータをメールでご応募ください。コミックやイラストは、原稿用紙をお送りいただきても、データをお送りいただいても結構です。データが5MB以上の場合は、ファイル転送サービスなどをご利用ください。コミックには枚数の規定はありません。小説は1ページを17行×40文字として、50ページ以上の作品をお送りください。

3. 選考結果などについて

メールでご応募いただいた場合は、着信のご連絡は必ず行っています。選考は隨時行っており、締め切りはとくにございません。選考終了後、採用の方にのみ別途お返事をしております。通常はお返事までに、2週間～1か月ほどお時間がかかります。

4. 作品の送付先

ご郵送の場合は下記住所までお送りください。メールでのご応募は以下のアドレスで受け付けております。どちらの場合も必ず「お名前、年齢、ご職業、ご住所、電話番号」を書いた紙を同封するか、明記してください。メールの宛先: desk@parabook.co.jp

〒166-0011 東京都杉並区梅里2-40-19 ワールドビル202
株式会社パラダイム 「ぶちばら文庫作品応募」係

※ご応募の際の個人情報は、選考結果のご連絡にのみ使用いたします。

作品のご返却を希望の場合は、宛名を書いた返信用封筒と切手を同封してください。